

職場復帰支援におけるキャリア再形成に関する調査研究

○齋藤 友美枝（障害者職業総合センター 主任研究員）

浅賀 英彦・宮澤 史穂・大谷 真司（障害者職業総合センター）

1 はじめに

高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下「当機構」という。）におけるリワーク支援は、障害者職業総合センター職業センター（以下「職業センター」という。）での開発及び試行を経て、平成17年10月全国の地域障害者職業センター（以下「地域センター」という。）に展開し、現在に至っている。地域センター利用者のニーズの多様化を踏まえて、職業センターは支援技法の開発・改良に取り組んでおり¹⁾、本研究も職業センターの依頼によるものである。

当機構のリワーク支援は「職業リハビリテーションのノウハウや知見を生かしたキャリア（キャリアプランの再構築のための支援）や職場を意識したプログラムが特有の強みとなる」ことが示唆された²⁾が、本研究は「キャリアの再形成」に焦点を当てたものである。本研究における「キャリア再形成」とは、退職を経て職場復帰した方の復帰過程における「仕事観・やりがい・人生・興味といった自分の価値観の振り返り」であり、ここでは「キャリアの見つめ直し」と表現することとしている。

なお、当機構では職場復帰支援をリワーク支援とは別のプログラムで高次脳機能障害を有する方にも実施しているため、本研究では精神疾患（発達障害者における二次障害を含む。）及び高次脳機能障害による退職を経て復職した方の「キャリア再形成」を調査する。

本発表では、復職支援の実態や「キャリアの見つめ直し」を把握するための支援機関に対する調査の考え方や今後の研究の方向性について報告する。

2 文献調査

2023年7月12日に検索エンジンCiNiiを利用し「復職」または「職場復帰」で検索を行った。期間は2019-2023年とした。検索した文献のうち、精神疾患やメンタル不調、発達障害、高次脳機能障害による退職者の復職支援や職場復帰支援を対象として利用者の心理的側面に注目したもののみ抽出し、抽出した文献の引用文献も参考にした。

文献一覧を表1に示す。

野田³⁾は退職者の心理的テーマと心理的支援における課題を見出すことを目的としたレビュー論文で、退職者が復職する過程で「退職後の職業的自己像の揺らぎ」「職場復帰をめぐる葛藤」「職場復帰後の職業的自己像の揺らぎ」が生じていること、自己の再構成を支援する必要性を指摘している。そして、今後の課題の中で、メンタルヘルス疾患の退職者はうつ病とは限らないため、病状や退職プロセ

スの多様性を十分考慮することを指摘している。

川崎⁴⁾は、当事者である休業者の視点から援助専門家との関わりによる影響やその評価を調査し、関わりや段階が三段階に分けられること、段階によって援助専門家と関わる目的やニーズが異なることなどを明らかにし、併せて職場復帰後の経過の調査や援助者へのインタビューの必要性に言及している。

また川崎⁵⁾は、うつ病患者がリワークプログラムに参加するにあたっての心理プロセスについて調査分析を行い、プログラム参加へ踏み切れない状態が続く中で「現実的困難を認識する」ことが職場復帰を現実的にとらえるきっかけとなることなどを明らかにした。

村上⁸⁾は、支援者と当事者では就労に対する価値観の違いがあることから、退職から復職までの当事者の心理的過程とソーシャル・サポートについて調査している。当初は焦りや不安、恐怖など場当たりの感情が主であったが、復職に近づくとともに自身を振り返るからこそ生まれる感情に変化するとともにポジティブな感情が増加していることや同様なソーシャル・サポートであっても時期や対象者によって位置づけ、意味づけが異なることなどを明らかにするとともに、勤務への復帰と心理的復職の時期が異なることを見出された結果から、復職後のソーシャル・サポートに焦点を当てた検討が必要と述べている。

今回抽出した文献は、いずれもメンタルヘルス不調や気分障害等により退職中もしくは退職を経験した方を対象としていた。高次脳機能障害を有する方の復職支援について、当事者の心理をテーマとしている文献は見られなかった。

本研究では、職業センターの実践や先行研究を参考にし、「キャリアの見つめ直し」に焦点を当てつつも、①当事者をはじめ、キャリアにかかわる様々な支援機関、企業にそれぞれの立場からの受け止め方を調査すること②気分障害を中心としながらも発達障害者における二次障害、高次脳機能障害者を対象とすること、などにより、企業を含め支援を実施する側と利用者との一致や齟齬なども追うことで、より多様な分析・把握を試みる。

3 調査方法

(1) 有識者ヒアリング

アンケート調査に先立ち、調査項目等について有識者2名にヒアリングを行った。その結果、①本研究における「キャリア」の定義を明確にする必要があること②高次脳機能障害を有する方の復職事例が少ないため事例収集に工

表1 文献一覧

著者・発行年	タイトル	雑誌名	対象者	目的（明らかにすること）
川崎舞子 (2012)	うつによる休業者が体験した援助専門家との関わりに関する質的研究	臨床心理学 12(3),p.361-373	うつ病エピソードによる休業者12名 (30~50代)	・休業者が職場復帰支援にどのようなつながり、援助専門家とどのような関わりを持ったか ・それらの関わりを休業者自身がどのように評価したか
川崎舞子 (2015)	うつ病患者の職場復帰プロセスに関する検討ー休業時からリワークプログラム参加への準備期に焦点を当ててー	産業精神保健 23(1),p.38-48	うつ病により一年以上休業した男性15名 (30~50代)	休業者がどのように職場復帰準備を始める段階に移行していくのか
野田実希 (2019)	休職者の視点から職場復帰過程における心理的支援を考えるーメンタルヘルスと職業的自己に関する文献検討ー	臨床心理学19 (2),p.233-243		休職した職業人の内的体験に関する研究を概観し、当事者の心理的テーマと心理的支援における課題を見出す
大江真人、田中浩二、川崎絵里香、大江真吾、長山豊 (2020)	気分障害による休職後に復職・就労継続している労働者のレジリエンス	日本看護研究学会雑誌 43 (5),p.847-855	気分障害を理由とする休職後に復職し6か月以上就労継続している労働者8名 (30~50代)	気分障害による休職後に復職・就労継続している労働者のレジリエンス
湯沢由美 (2021)	メンタルヘルス不調で休職した男性の復職過程における周囲の関わりー家族の関わりを中心とした質的内容分析ー	産業精神保健 29(2),p.137-146	メンタルヘルス不調によって休職し復職した労働者男性6名 (30~50代)	・休職者の人生や経験の再考と再構築とはどのようなプロセスであるのか ・その過程において家族の関わりがどのような意味を持っているのか
村上詩歩、奇恵英 (2021)	メンタルヘルス不調による休職者の「心理的復職」の過程	福岡女学院大学大学院：臨床心理学紀要第18号,p. 43-54	メンタルヘルス不調により休職やそれと同等の状況を経験した社会人5名 (20~50代)	当事者の視点からのリワーク活動の実際と評価、ソーシャル・サポートの実際

夫が必要であること③休職者の心理は復職後も揺らいでいるためインタビューのタイミングに留意する必要があることなどの指摘があった。

(2) 支援機関に対するアンケート調査

ア 調査対象

リワーク支援を実施している医療機関、地域センター（多摩支所を含む）

イ 実施時期

2023年9月（1か月間）

ウ 主なアンケート項目

- ・実施している支援のうち、利用者の「キャリアの見つめ直し」に何らかの影響を与えたと思われた支援と具体例
- ・支援以外で利用者の「キャリアの見つめ直し」に何らかの影響を与えたと思われた事例の例

エ 実施に係る留意事項

利用者の「キャリアの見つめ直し」を他者である支援者から把握するアンケートであるため、影響を与えたと思われた支援と支援以外に分けて、あらゆる場面で支援者が気付いた変化の機微を掬い取れるようにした。また、支援者が答えやすいように時期を不問として記入例を付し、データをより多く収集するため、「キャリアの見つめ直し」に何らかの影響を与えたと思われる支援や事例は複数記載できるようにした。

4 今後の進め方

アンケートで得られた結果を深めるため、協力可能な医療機関、地域センターにヒアリングを行う。併せて、EAP機関と高次脳機能障害を有する方に復職支援を行っている機関に対してもヒアリングを行う。

地域センターの情報に基づいて対象企業を抽出しアンケート調査を実施し、内諾が得られた企業に対しヒアリング調査を行い、モデルとなり得る「企業における復職支援の事例」を複数取りまとめる。ヒアリングに当たっては、可能な範囲で復職したりワーク支援利用者である社員本人にも参加を求め、自身についての振り返りを踏まえた発言をいただく予定である。

復職後も利用者の「キャリアの見つめ直し」は続いていくと思われるため、利用者のインタビューは利用者や企業の状況、支援者の見立てを確認しながら慎重に進めていきたい。

【参考文献】

- 1) 古谷いずみ『障害者職業総合センター職業センターにおけるリワーク支援技法の開発』、「産業精神保健vol. 27特別号」(2019), p. 111-115
- 2) 障害者職業総合センター『職場復帰支援の実態等に関する調査研究』, 「調査研究報告書No.156」, (2021)
- 3) 野田実希『休職者の視点から職場復帰過程における心理的支援を考える：メンタルヘルスと職業的自己に関する文献検討』, 「臨床心理学19 (2)」 (2019), p. 233-243
- 4) 川崎舞子『うつによる休業者が体験した援助専門家との関わりに関する質的研究』, 「臨床心理学12(3)」 (2012), p. 361-373
- 5) 川崎舞子『うつ病患者の職場復帰プロセスに関する検討ー休業時からリワークプログラム参加への準備期に焦点を当ててー』, 「産業精神保健23 (1)」 (2015), p. 38-48
- 6) 大江真人、田中浩二、川崎絵里香、大江真吾、長山豊『気分障害による休職後に復職・就労継続している労働者のレジリエンス』, 「日本看護研究学会雑誌43 (5)」, p. 847-855
- 7) 湯沢由美『メンタルヘルス不調で休職した男性の復職過程における周囲の関わり：家族の関わりを中心とした質的内容分析』, 「産業精神保健29 (2)」 (2021), p. 137-146
- 8) 村上詩歩、奇恵英『メンタルヘルス不調による休職者の「心理的復職」の過程』, 「福岡女学院大学大学院 臨床心理学紀要第18号」, (2021), p. 43-54